



ジャガイモは、なぜ土の中で実がなるの

ジャガイモのイモは、実ではない

ジャガイモは、料理によく使われますね。イモのどこを切っても、種らしいものは見つかりません。イモは、実ではないのです。ふつうは、花が咲き、花粉がめしべにくっついて種ができ、実ができます。ジャガイモは、花が咲きますが、ほとんど実はなりません。長い間、品種改良を重ねてきたため、実がつかなくなっているのです。

ジャガイモのイモは、くきが変化したもの

ジャガイモのイモは、土の中にある、くきが変化してできます。ジャガイモのたくさんしげた葉の中で、葉緑素が日光の助けをかりて、せっせと、根から吸い上げた水と、空気中の二酸化炭素から、でんぷんなどの栄養分を作ります（これを光合成という）。栄養分は、くきや葉の成長などに使われ、あまったでんぷんは、土の中のくきにたくわえられて、イモができてきます。同じように見えるサツマイモは、くきではなく、根に栄養がたくわえられたものです。イモの種類によって、栄養分をたくわえる場所がちがうのは、ふしぎです。

ジャガイモは、イモでふえていく

ジャガイモのイモには、くぼみがあちこちにありますが、春先になると、このくぼみから、芽が出てきます。ジャガイモのイモを、そのまま土に植えておくと、芽から新しいジャガイモが育ち、また、たくさんのジャガイモがとれます。だから、種がなくても、ジャガイモはふやしていけるのです。（監修・矢野 亮）

